

「問い」から生まれる世界史探究

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立龍野高等学校 赤羽 隼季

本時の目標  ・中世東ヨーロッパにおけるビザンツ帝国の衰退の原因とその結果について考察しまとめる。 (授業の前提)教科書を精読しながら探究学習の要である「問い」を生徒・教師の相互間に設定し、対話を通じて疑問を解決し、主題に応じて各自が主体的に学ぶ。	校種・学年	高等学校・2年
	教科・領域	地理歴史科
	アプリ・ソフト	・Padlet ・Google レンズ 等
	備考	

○本時の展開

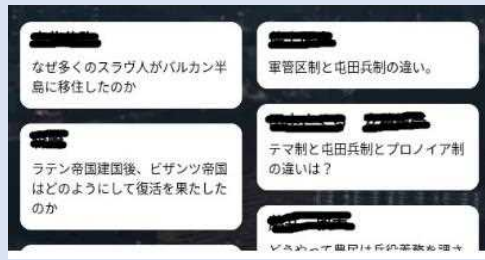
	○学習活動 (◆指導上の留意点)
導入	○この都市はどこだろう? 「コンスタンティノープル」の地図を見せ、あなたならこの都市をどう攻略するか尋ねる
展開	ビザンツ帝国の衰退の原因と経過を考察する ○教科書を精読し、本日のめあてを意識しながら重要箇所と疑問点に線を引き、疑問点から「問い」をつくる。 ○「問い」を各自 Padlet に書き込み、クラス全員で「問い」を共有し、ペアで話し合い、答えを記入する。 ○プリントに載せた QR コードを読み取り、本時のポイントを PDF で確認し、教師設定した「問い」について考察し、まとめる。 SQ「テマ制とプロノイア制の違いは何?」 MQ「ビザンツ帝国はなぜ衰退したのか?」 ◆「問い」を生み出させるために教科書の精読中に多面的多角的な視点を織り交ぜて話す。
	まとめ

**育成できる情報活用能力**

◎初見の資料に対して文字資料をもとにネット検索を行うか、図版には Google レンズを利用することで、全員が情報収集を行うことができる。

**育成できる情報活用能力**

◎教科書本文に対し「なぜ」という批判的思考で臨み、図表やネット検索を用いて疑問点を解決していく力をつける。また、他者が感じた疑問を Padlet で共有することで、多角的視点で考察することができる。



<b>生徒の感想</b>
・クリティカルリーディングをすることで、ただ教科書を読むことから、深く読めていけるようになった。 ・他の人の疑問点が可視化されるところがいいなと思った。

**<情報活用能力の育成とその効果>**

・批判的思考力を身につけることで、文章の深読みや資料の読み取りが多様な視点をもって取り組むことができた。また「問い」に対する検索の仕方も上手になり、必要な情報の組み合わせ方が上達した。

自らを成長させる人間として生きるため、どのように AI と共存していくかを考える

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立神戸高等学校 大久 孔明

本時の目標 ・自らの体験などを振り返り、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。 ・生成 AI に触れ、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。	校種・学年	高等学校・2年
	教科・領域	公民科
	アプリ・ソフト	・ロイロノート ・Chat GPT
	備考	1時間(65分)

○本時の展開

	○学習活動 (◆指導上の留意点)
導入	○問1「自分の特徴を最大3つ書き出そう。」 問2「問1で挙げた特徴は、いつ、どうやって獲得したか書き出そう。」 ◆個人で記入し、ペアで交流し記入する。最後に、全体で交流した後、再度記入する。
展開	○資料読解:成長を実感できている人の割合 問3「10代の該当者の割合が高いのはなぜだと思うか。」 ◆年齢が上がると、成長を実感しにくくなること、10代は様々な経験が新鮮で成長を感じやすい時期であることに気づく。 ○体験:ChatGPT を使ってみる ◆クラスの代表者に質問を考えさせて教師が入力するのもよいし、自由に使わせてもよい。 ○資料読解:ChatGPT を巡る議論 問4:「AI の活用で、自らを成長させる人間になれるか。資料を読み、考えなさい。」 ◆ChatGPT の規制をする大学の懸念点と、大学の姿勢を批判する2つの意見を読み取る。
まとめ	○本時の問い「自らを成長させる人間として今後生きていくには、どうすればよいか。」 ◆成長を実感しやすい 10 代に、生成 AI をどう活用すればよいか、自分事として考えさせる。

生徒の感想

- ・AI が身近なものとなる中でも、自分で考えることを放棄せず、AI の考えとは別に考えていくべきである。
- ・頼れるものには頼ることも必要。
- ・「上手く」使う必要がある。

育成できる情報活用能力

◎授業はタブレットでデータ配付、記入、提出全て行う。(ペーパーレス)



育成できる情報活用能力

◎生成 AI に質問し、どのような答えが返ってくるかを体験する。

**重要** チャット履歴無効化設定をしておくこと。

<情報活用能力の育成とその効果>

・本授業は ChatGPT の使い方を学ぶものではなく、自らを成長させる人間であるための手段としていかに生成 AI を活用していくかがねらいである。情報活用能力(情報モラルを含む)を、公共の目標にリンクさせることで、情報・公共の双方の力を育成することができる。

## 新たなプレゼンテーションの方法を身につける

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立神戸北高等学校 田中 秀樹

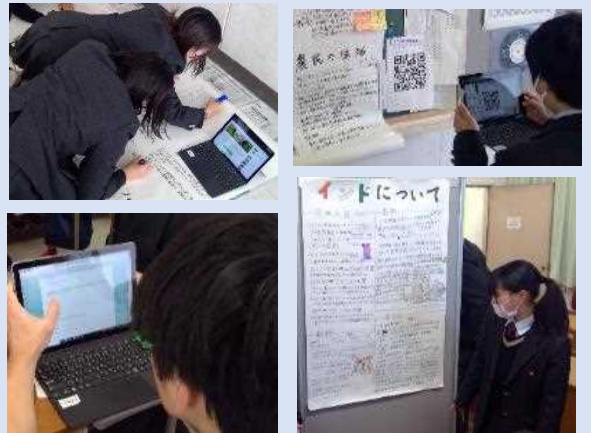
<b>本時の目標</b> ・課題に対し、教材やインターネットから適切に情報を収集することができる。 ・必要となる情報を選択し、自己の主張を論理的に説明するために、わかりやすくポスターをまとめることができる。 ・ポスターを作成するために、班員と協働して活動することができる。	<b>校種・学年</b>	高等学校・3年
	<b>教科・領域</b>	地理歴史科
	<b>アプリ・ソフト</b>	・Microsoft Forms ・Microsoft Excel ・Google Chrome
	<b>備考</b>	

## ○本時の展開（7時間単元）

	○学習活動（◆指導上の留意点）
<b>導入</b>	(1時間目) ○発表までの目的、方法などを説明 ○班分け、課題の設定 ◆世界史 B と日本史 B との共同授業 ◆2年間で学んだものから興味のあるテーマを各班で選び、さらに班の中での個人の担当テーマを決める。
<b>展開</b>	(2時間目以降) ○班別で課題に取り組む。 ◆教科書・図説、インターネットを活用して必要な情報を収集する。 ○ポスターにまとめる。 ◆発表内容に関するクイズを盛り込む。 ○クイズの回答、感想、質問を書き込む Forms を作成する。 ◆Forms の QR コードを作成し、それをポスターに貼っておく。 【7時間目】発表会 ○世界史選択者は日本史選択者に対し発表する。参観者はタブレットで QR コードを読み取り Forms に回答する。
<b>まとめ</b>	○Forms で回答や評価を確認する。 ◆活動全体の振り返りを班員で行う。 ○ポスターは学校の廊下に掲示し、全校生徒や教員が見て、Forms でいつでも回答できるようにしておく。

## 育成できる情報活用能力

◎ポスター発表に Forms を活用することで、聴衆が個々人の回答や感想を述べやすくなり、主体的にポスター発表を聴くことができる。



## 育成できる情報活用能力

◎授業の枠を超えて、作品を見たり、クイズに答えたり、感想を書き込んだりすることで、多くの生徒に興味関心を持たせることができる。

<情報活用能力の育成とその効果>  
 ・発表の聞き手がより興味を持ち、深く考えて回答することができた。